

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2510101575		
法人名	医療法人 緑生会		
事業所名	グループホームクリーム大石 西館		
所在地	滋賀県大津市大石淀3丁目2-2		
自己評価作成日	平成27年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人滋賀県介護福祉士会
所在地	滋賀県草津市駒井沢町30番地
訪問調査日	平成27年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大津市の一番南にある町、大石にあるグループホームです。近くに流れる瀬田川ではカヌーをしたり、川下りを楽しんだりしている人がいます。桜の季節と紅葉時は、すばらしい景色の場所です。開設15年目になるグループホームです。入居者も開設時からの人が1名おられ、ホームと共に15年目になります。その方は、80代から90代へ、時が流れました。他の8人は入れ替わりしましたが、平均介護度は3.3で、平均年齢85.4歳といつもの同じくらいです。月一度は、全員で外出し買物や観光、食事を楽しんでいます。主治医は、同法人の南大津クリニックです。また、道を挟んで同法人の老人保健施設チエルシーがあり、日中は、看護職員が配置されている為、何があれば応援をお願いします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然の景色と民家に隣接するクリーム大石は何か懐かしさを感じる場所にある。医療法人、緑生会が運営するクリニックをはじめ、老人保健施設や小規模多機能居宅介護など様々な事業を展開されており、法人全体で職員教育は取り組まれていて、変則勤務で受けられない職員がいないように他の事業所でも受けられるようになっている。事業所間の連携もあり、クリーム大石では、座位の取りにくい利用者には、目の前にある老人保健施設の寝たまま入れる浴槽を借りて入浴を楽しんでもらっている。近くの公園(テニスコート)までの散歩は、近隣の人とのふれあいの時間でもある。スタッフは利用者の出来ることを引き出すケア(おはぎづくり、干し柿づくりなど)を心がけている。比較的重度の方であつてもリビングにつどい人のぬくもりが感じられる工夫がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

西館

h171youkinn

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、常にリビング、スタッフルームに掲示し、また月1回スタッフ会議でも確認しています。	月1回(常勤、非常勤問わず)参加の会議の中で理念の確認を行っている。毎日行うカンファレンスの中でも理念に反するようなことは、なかったか振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常に利用者様が外で散歩したり、地域のお店での買物、美容院も利用しています。いつも玄関を開放し、訪問して頂きやすくしています	散歩時に出会えば挨拶を交わしたり、近隣の庭の花などを眺めさせてもらっている。地域の美容院から迎えに来てくれる関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の医療法人を通じて、地域自治会主催の勉強会に地域の人々と一緒に参加して、認知症の相談の支援をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様のご家族、地域の方、自治会の方など出席して頂いて意見を聞いています	ビデオを使って、ホームの状況を参加者に報告し意見を聞いている。防災について意見をもらい今後の検討課題としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターなどを通して運営推進会議にも参加して頂いています。家族通信に、ご家族様の参加の呼びかけをしました(H27.1・H27.5)	地域包括支援センターの職員を通じて、情報の共有、意見交換が出来ている。必要時は市の職員と相談することもできる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人一人の生活リズムや活動パターンなどをアセスメントに、事故のない様努めています。スタッフの声掛け、付き添いないし、センサーなども必要に応じて使用しています(センサーは家族の了解をいただきます)3ヶ月に一回、モニタリングを行い、センサーの利用について話し合っています。	勉強会が年1回(全員参加)あり、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。昼間は、玄関の施錠はせず、1人で出かけられる方には、スタッフが携帯電話を持ってさりげなく、ついていくようにしている。また、なぜ落ち着かれないのかを申し送りして検討して支援に活かすようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議での勉強会を持ちます。また、スタッフの相談や悩みを聞きストレスが溜まる事のない様にしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議の場で勉強会を持っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明は管理者、事務、直接のケアスタッフとの面談を通して同意を頂く様になっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全員のスタッフが、個々の利用者様の話を聞き、不満苦情を全員で共有し理解し改善をする様にしています 苦情処理ノートで記録を残し、活用しています	運営推進会議での意見交換や面会時、また電話にて意見や要望を聞くようにしている。聞き取ったことは、スタッフ会議で検討し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で要望、意見を聞く、または、リーダーが直接話しを聞いたたり、提案ノートも設けてケアに反映しています	スタッフ会議にて意見や提案はしやすい雰囲気であり、検討して実現可能なことであれば反映できていると職員より聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保をし、ゆとりを持てる様、配慮しています 個々の状況に応じた声掛けや相談に応じています(勤務時間、休みなど)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議で月一回、認知症の勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに出席、情報交換しています。ルーム(6施設)間での情報交換は、2ヶ月に一度開催されるリーダー会議で話し合い等しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学のお奨め、ご本人ご家族様の面談をしています 入所当初は、特に情報を細かく記録し全員で共有しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	複数の職員で話を聞く、入居時以外にも面会時などを利用して家族様にお話をさせて頂き、ケアプランの作成の参考にし、反映させています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのご家族の負担を傾聴し心より理解するように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの個性、年齢差もうまく利用し、利用者の方の喜びや寂しさに共感する様、お話を聞く事に重点をおいています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、時間を頂きお話ををさせて頂き、ケア記録なども読んで頂きます お話の内容などは、面会簿に記載しケアに役立てています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方の訪問も歓迎させて頂いています(ご家族には報告する)	馴染みの人や場所は、入所時に聞き取り記録していて、随時、本人の記憶の人や場所を追加していき出来るだけ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席の配慮、また揉め事が大きくならない様声掛けなどしています 利用者様の想いは否定せず受け止めます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合などは、お見舞いに行き利用者様同士、またスタッフとの関係の継続に努めます		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自室で一人居たい方、一人では寂しい方、個々の要望を尊重しています おやつ、食事、外出などで皆様共有の楽しみも持って頂きます	日々の関わりの中で、意識的に本人の思いや意見を引き出すようにしている。本人の言葉をノートに書き溜め、スタッフ間で検討し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食事後、おやつ後、またお部屋に伺い昔の話を聞いたり、時には、こちらから質問して教えて頂く形でたくさんの情報を頂ます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を見ながら昼寝、家事のお手伝い等をして頂きます		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回スタッフ会議で意見を出したり介護計画の検討をしています 提案ノートの活用も合わせてしています	日々の関わりの中で本人の、言葉や様子を記録して職員全体でケアの振り返りをしてアセスメント、モニタリングに反映させている。。家族の訪問時や手紙にて家族の意向を聞き、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を勤務前に読み、朝・夕の申し送りは連絡帳も利用しています 提案ノートへの記録も随時行う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者を通じてクリニック、病院などの受診の手配をしています 外出、買物支援も個別に行います 外泊時には、ご家族との連絡を密にします		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近辺の散歩で顔見知りの方もでき、お話する事もあります		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	強制ではありませんが、南大津クリニックの医師がかかりつけ医となり、週一回、もしくは複数回定期受診を行っています 歯科訪問治療も実施しています	協力医療機関の往診をはじめ家族の意向を聞き他の医療機関に受診支援を行う。家族と受診される場合は情報提供をしている。、受診結果は、関係機関で共有して緊急時にもすぐに対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師の訪問があり助言や指導をいただいています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の判断でお願いしています 入院された場合は、ご家族に連絡をとり送迎などもしています また、退院後のケアについてもお聞きしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方の要望をお聞きし文書化しています(毎年、再確認させて頂いています)	状態変化の時は、家族に事業所が対応できるケアについて説明しケアプランを見直し、医療、介護のスタッフ間で共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には南大津クリニック及び訪問看護モックへ連絡し、指示をもらっています 酸素ポンプの使い方などは、スタッフ会議で適宜確認しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の火災(地震)訓練に参加、老人保健施設フェルシーとの連携も訓練しています	定期的に近隣の施設と連携して防災訓練を行っている。地域の協力体制について運営推進会議で協力をお願いしている。	家族や自治会とも一時の避難場所や経路が共有でき協力体制が得られることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴の際には、利用者様の羞恥心に十分配慮した声掛けや、介助を心がけています 自室への立ち入りには、ノックや声掛けで了解を得ます	ポータブルトイレ使用か、コールを押すかなど自己決定を尊重し、鍵をしたりカーテンを使用して羞恥心には十分配慮している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を必ず事前に確認し、医療的な事等は医師より説明を受け、納得して頂く様にしています 外出なども希望を聞いています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間、入浴などご本人に合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へは、ご本人の希望で実施、通えない方は訪問美容も実施しています お化粧品道具など用意し、スタッフがお手伝いしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の味付け、盛り付け、配膳、洗い物などはできる方にして頂いています 好き嫌いは、ご自由にして頂き、別メニューも用意しています	食事の配膳、洗い物は個人に合わせて出来ることを一緒にしている。嫌いなメニューは料理法を工夫している。口から食べて食事を楽しむ取り組みをしている。2ヶ月に1回の外食で好きな物を食べる機会を作っている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録し、食事以外に1000ccを目安にしています 体重測定、血液検査などの結果を参考に水分量など考慮しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施しています 特に夕食後は、きちんと義歯の管理もしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録に添ってトイレ誘導の声掛けを行っています 失敗した時はすみやかに始末をし、ご本人の気持ちを大切にす また、失敗の原因も考え次に生かします	記録をもとに排泄パターンを細かく把握し、個別に対応している。失敗した時は羞恥心に十分配慮し、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつける 水分量の把握 医師の指示等により薬も使用 牛乳、ヨーグルトなども食事に多用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼、夜の入浴を実施しています 順番はスタッフが決めさせて頂く事もあります が、できる限り要望に添う様にしています	入浴時間は本人の希望を聞きながら対応している。入浴拒否の方は清拭やドライシャンプー、足浴などで対応している。座位の取りにくい方には、隣接している老人保健施設と連携して寝たまま入れる浴槽で支援している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は個別に対応します 空調、寝具の清潔保持、室内の温度、湿度にも留意しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について、各人ファイルを作成しわからない点は薬剤師に聞く、また誤薬には十分注意して工夫している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回以上外出、外食の実施 季節の行事、誕生会、散歩など 買物は外出時、昼食後行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にも左右されますが、散歩を日課としています ご家族様にも協力頂き、外泊、外食などとして頂いています	個人の体力に合わせたコースで散歩している。日常的には、大石淀公園まで毎日散歩している。年に何回かグループでの外出をしたり、2ヶ月に1回の外食を継続している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食の際スーパー等に立ち寄り、ほしい物を購入して頂きます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は原則自由です(一部ご家族の要望をお聞きしている方もあります)年賀状を、家族様に出したい時はハガキの手配をします		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、朝夜の清掃を実施しています 季節の花なども利用者様に生けて頂きます 夏の暑さには、すだれを利用スタッフの声の大きさなどにも気をつけます	毎日の清掃で自室、共有スペース共に清潔感があり、窓も大きく明るい。花や野菜を育てたり飾って、季節感を感じることができるように工夫している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは、3つありそれぞれ気の合う方で座って頂きます ソファも用意しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた、タンス、お位牌なども置いて頂いています	ベット、カーテン、ポータブルトイレは備え付けのものではあるが、他は持ち込み自由で、自分の好みに合わせて部屋を飾ることができるよう配慮している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、水道の出し方、エレベーターの使い方など、出来るだけ視覚に訴えています 手摺、スベリ止めなども使っています		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	運営推進会議の家族様の出席を促す	もっと多くの家族様に出席して頂く	1月と5月の家族通信に会議の日時等書いて参加の呼びかけをおこないました	6ヶ月
2	35	災害対策に対して、水害に対するマニュアルが無い	水害時のマニュアル化	水害時、立木観音前の道路、関津峠などが通行止め等になった時のスタッフの確保。 大石在住のスタッフに応援を依頼する。	6ヶ月
3	2	地域とのつながりの幅が広がりにくい。バザーは、年一回行い地域の方々の参加も多いが、それ以外の接点がすくない。	地域の清掃(7月)に利用者様と一緒にスタッフも参加していく 地域の文化祭、運動会へも参加する	-	1ヶ月
4	4				ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		(↓ 該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/>	⑤その他()